

地域包括ケアネットワーク No.42

介護は突然やってくる！

小谷医院 小谷 重光

平成28年年末の夜に、ことは突然やってきた。高齢の母がコンクリートの外階段で転落した。臀部、腰部、背部を打撲しながら、滑るように落ちてしまった。痛みが強いために1人で起き上がれなくなり、介護が必要となった。立位になって手を引くと少し歩けるので、大腿骨の骨折はないように思われた。ただ、腰部と両側助骨弓を強く痛がった。

母は、昼での生活なので、床から起き上がるために私が手を添えてサポートするが、足を踏んばれず、気がつけば臀部を中心に体がぐるぐる回っている。少し引き上げれば、あと50cm引き上げれば立てるというところで痛みが増し、呼吸が苦しくなって床にへたり込んでしまう。いちからやり直して、いつになったら起き上がれるのかと不安がよぎった。くり返すこと1時間ほどで、やっと起き上がることができた。それから毎日、朝起こすのに1時間、色々と身の回りを整えるのに1時間かかり、夕も同様で一日に約4時間介護時間が必要となり、年末までの仕事や年賀状もできなくなってしまった。

痛みが改善しないため、説得して整形外科を受診したところ、幸い骨折はなく、左助骨のヒビと打撲と御高診頂いた。診断の結果、安心して動かせるようになり、痛みは徐々に改善していった。同時に、当院ケアマネジャーが迅速に対応してくれ、介護用ベッドが導入された。ベッドのお陰で、介護時間は大幅に短縮され母の起き上がりも楽になった。

今回、母の介護を通して思ったことは、一般の家庭では、仕事をしながら介護することは時間的、体力的、精神的に大変なことで、介護離職されることもありうると感じた。急なことで、介護のやり方もわからない。このような時に介護の駆け込み寺のような施設や介護方法を教えて下さる所があると在宅生活の維持ができるのではないかと思われた。

また、早期の的確な診断が、どこまで動かして良いかを知るために必要であると実感した。

さらに、介護用ベッドによって介護負担が大幅に軽減され、本人の早期の自立支援に大変役立った。今の介護保険制度では、軽度者は介護用ベッドの利用はできないが、高齢者では昼での生活をしている方も多いため、柔軟な運用で自立支援をお願いしたい。

そして、どんなサービスが必要かを見極めるケアマネジャーなどの専門職の存在や連携が欠かせないと思われた。

介護は、突然やって来て大変であったが、介護者やご本人が戸惑われながらも、何とかしなければという気持ちがあり、どんな支援が必要か少しわかった貴重な体験であった。